

最近の話題・トピックス

「炎症性腸疾患に対するUp to dateな治療」

消化器内科 加藤 隆弘

炎症性腸疾患の病因は未だ十分には解明されてはいませんが、腸管の粘膜免疫システムが障害されているため、健全な状態では起こらない腸内細菌や食餌などに対する異常な免疫反応が深く関与していると考えられています。ライフスタイルや環境などの変化などにより、IBDの患者数は増加の一途をたっており、本邦では潰瘍性大腸炎は8万人、クローン病は2万人を越えています。完治することが少なく、新たな治療の開発が求められています。本稿では炎症性腸疾患に対する新しい治療で、当院でも行っております血球成分除去療法と抗サイトカイン療法についてご紹介いたします。

潰瘍性大腸炎の緩解導入の基本治療は長年アミノサリチル酸製剤、ステロイドホルモンによる薬物療法でした。しかし、アミノサリチル酸製剤の有効性、ステロイドホルモンの副作用、ステロイド抵抗性症例やステロイド依存性症例に対する治療の困難性など幾多の問題点が存在し、これらを解決できる手段として本邦で血球成分除去療法が開発されました。現在では主にステロイド抵抗性症例やステロイド依存性の潰瘍性大腸炎を中心に血球成分除去療法が施行されていますが、ステロイドの副作用を鑑み、最近ではステロイド未使用例にも施行されるようになりました。患者様がインターネットなどで本療法の情報を入手され、自らお申し出になることも多くなっています。本療法は患者様の末梢血を体外循環装置に回し、白血球を中心とする活性化細胞を吸着・除去し、免疫学的過剰反応を抑制することにより炎症を鎮静化させるシステムです。現在、市場に出ていますものはアダカラム(GMCAP; 顆粒球・単球除去療法、日本抗体研究所)とセルソーパー(白血球除去療法、旭メディカル社)の2種類があります。後者がリンパ球と血小板も除去するのに対して、前者はリンパ球、血小板の吸着除去は微量です。どちらの療法であれ、ステロイド

抵抗性症例では約60~80%が緩解導入に成功あるいは改善を認めたという報告もあり、効果発現に少し時間を要するものの、副作用がほとんどなく大変有用な療法であります。本療法は基本的に週1回1時間、5回を1クールとし、必要に応じて2クールまで施行可能であり、当院では透析科で施行しております。

クローン病は従来エレンタールに代表される栄養療法、TPN、アミノサリチル酸製剤およびステロイドホルモンによる治療が中心でした。しかし、栄養療法ではコンプライアンスが不良であり、5アミノサリチル酸製剤は小腸型には効果が低く、ステロイドホルモンの長期的使用も有効性に乏しいという現状がありました。一方、クローン病の病態の形成には種々のサイトカインが関与しており、中でもTNF α が重要な役割を演じていることが判明しております。最近、生物製剤である抗TNF α 抗体(インフリキシマブ)による療法が登場し、その効果は即効性で持続性があり(約8週間持続します)、ADLの著明な改善をもたらす本療法は高く評価されています。本邦では関節リウマチの患者様に対しても本療法が施行されていますが、クローン病の場合は痔瘻などの瘻孔を有する例には、0、2、6週の3回注射、瘻孔を有さない場合には1回の注射だけが保険上認められています。しかし、インフリキシマブの効果持続が約8週であることを考えますと、今後定期的投与が必要であると考えられます。

さらに、従来の治療法は5アミノサリチル酸製剤や栄養療法から治療を開始し、無効であれば次の治療を考えるというステップアップ療法でしたが、欧米では抗TNF α 抗体によるトップダウン療法というのが注目されています。早期の段階(たとえばアフター性所見だけが認められる時期)から本療法により強力に治療を開始し、問題になる狭窄、閉塞、瘻孔を防止する療法です。今後の成績が期待されます。

インフリキシマブの副作用としては急性のinfusion reaction(I型アレルギーが関与しているといわれています)の他、免疫能の低下による感染症や悪性腫瘍の発生などに注意が必要です。関節リウマチの患者様で結核の発生率が4倍に増加したとの報告もあり、本療法が優れた治療法であるが故に、悪性腫瘍の発生も含め、今後厳重な経過観察と多施設でのさらなる検討が必要であると考えられます。

村上記念病院 直通電話番号

脳卒中 **ホットライン 070-6583-6677**

脳卒中治療は一刻を争います。当院では専門医が速やかな診断・治療を行います。

院内研修会等のご案内

●第27回 肝胆膵臨床報告会

7月26日(木) PM 8:00~
4階 講義室

●整形外科症例検討会

毎週月・水曜日 PM 5:30~6:30
4階 整形外科カンファレンスルーム

●糖尿病教室

毎週金曜日 PM 3:00~4:00
8F 講堂

～お礼～

5月19日(土)岐阜グランドホテルにて第4回岐阜地域医療連携研究会は、皆様のおかげをもちまして盛況に会を終了することが出来ました。多数のご参加をいただき誠にありがとうございました。



診療医ご案内

(平成19年6月1日現在)



診療科		月	火	水	木	金	土
総合内科		小島	丸山	—	井田	武田	—
消化器内科	1 診	井田	高野	小島	加藤(隆)	奥田	—
	2 診	加藤(隆)	佐藤	松田	橋本	春里	—
	初診	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	佐藤/松田
循環器内科	1 診	酢谷	加藤(周)	元廣	加藤(周)	辻本	丸山
	2 診	安部	酢谷(隔週) 安部(隔週)	辻本	酢谷	元廣	酢谷
糖尿病・甲状腺・内分泌科		猿井	武田	武田	猿井	猿井	武田
呼吸器科	(非常勤)	—	—	舟口	—	—	—
外科	1 診	山本	高折	山本	高折	川部	高折(1週) 川掛(2週)
	2 診	中嶋(隔週) 門川(隔週)	川部	門川	中嶋	中嶋(隔週) 門川(隔週)	中嶋(3週) 門川(4週)
乳腺外科		樫木	樫木	安部(末)	樫木	安部(末)	—
脳神経外科	1 診	石澤	郭	渡會	田中	安藤	郭
	2 診 (10:30~)	安藤	田中	安藤	石澤	—	渡會
整形外科	初診	日下	小橋	徳本	平井	青芝	青芝・河合(1週) 小橋・河合(2週) 平井(3週)
	再診	河合	河合	—	—	徳本(隔週) 小橋(隔週)	徳本(4週) 日下・河合(5週)
	予約診	平井	青芝	河合	青芝(隔週) 徳本(隔週)	大友	—
	予約診	徳本	今泉	日下	—	日下 中島(午後)	今泉 (第1・3・5週)
	予約診	—	平井	小橋	塚原	今泉	塚原 (第2週)
	1 診	堀尾	白内障手術 (堀尾)	堀尾	堀尾	堀尾	堀尾
2 診	堀	堀	—	堀	白内障手術 (堀)	堀 (隔週交代)	
泌尿器科	(非常勤)	—	伊藤	土屋	—	江原	—
歯科・口腔外科		村松・太田 田村	村松・太田 田村	村松・太田 田村	村松・太田 田村・本間	村松・太田 田村	村松・太田 田村

初診のみ

【ご案内】 ● 診療受付時間は、全科8:00~11:30、ただし、初診の方は、11:00で受付終了。(救急・急患の場合は、この限りではありません。)

● 年度変わりの時期や学会出張により、診療医が変更することがありますので、予め確認が必要である方は、お電話でお尋ねください。